

水や空気のように当たり前だった医療保障が、
いま大きく変わろうとしています。
患者さんにとって、そして国民にとって必要な医療が何か、
何が役に立っているか・・・それを考えるとき、
診療室で患者さんからいただいた情報ほど確かなものはありません。

患者さんからもらった確かな情報・・・

POEM
Patient Oriented Evidence and Message

no.1 2007.2.28

製作：有限会社 秋 編集事務所 イラスト：高田橋千佳子

The Japan Health Care Dental Association
日本ヘルスケア歯科研究会

事務局 東京都文京区関口 1-45-15-104 ☎ 03-5227-3716 Fax. 03-3260-4906
URL <http://www.healthcare.gr.jp> E-mail: center@healthcare.gr.jp

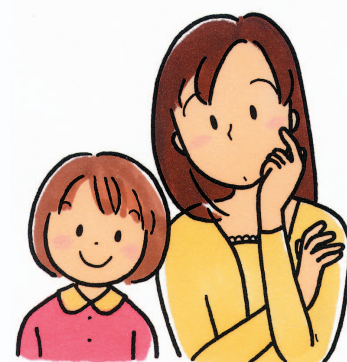
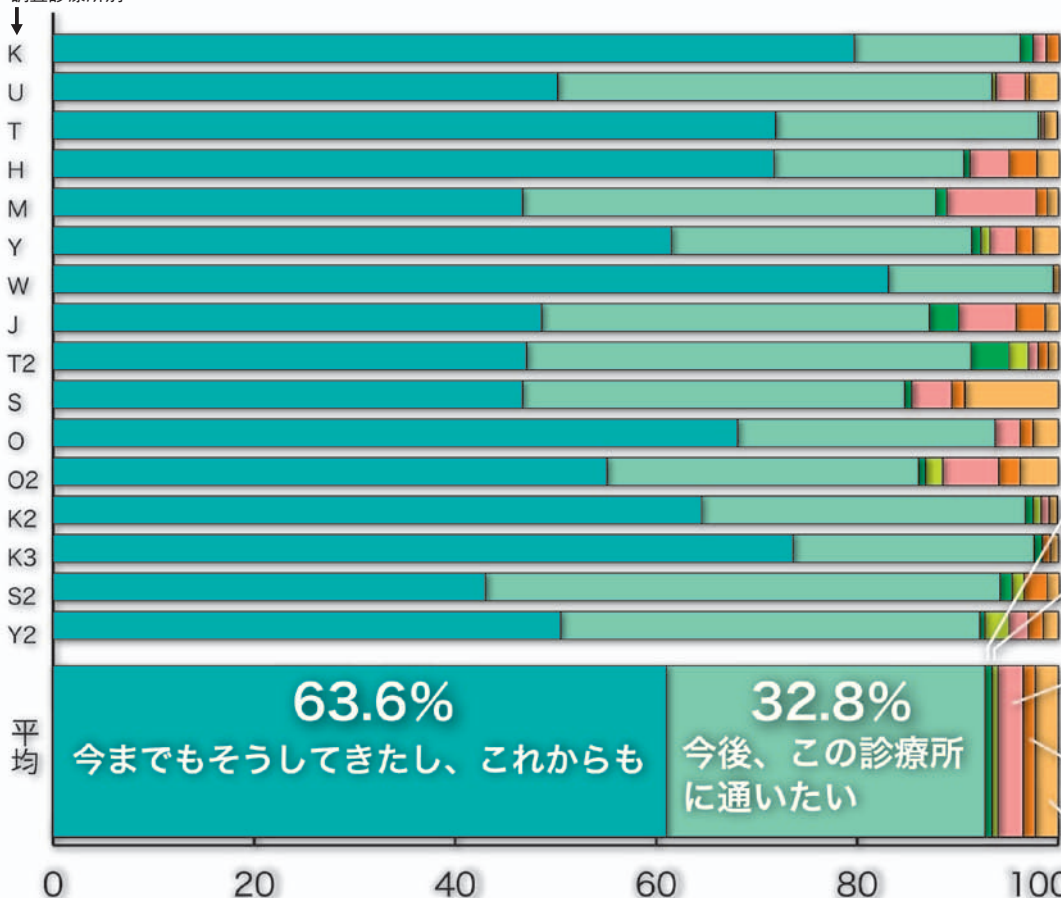
日本ヘルスケア歯科研究会では、患者本位の診療を提唱していますが、本当に患者さんの利益になっているかどうかを評価するために、たくさんの研究調査活動をしています。ご関心のある方は、研究調査報告書をご請求ください。

治療のために歯科医院に通うのじゃ損！^{そんな}

昔は誰でも、治療のために受診していました。今では歯医者を受診する 61.0% の人はメンテナンスのために通っています*1。そして、これからメンテナンス通院を始めたいと答えた人と合わせると実に 92.7%（重複回答を含めると 96.1%）になりました。

健康管理のために定期的に受診しようと思っていますか？

調査診療所別



その気はあるがもっと良いところを探したい

理解できたが受診はしない

悪くなったら早めに受診する

問題があったら受診する

無記入

メンテナンスの快適さ、健康維持の価値を知ってしまったら、
歯科医院は治療の場所から快適な場所になります。

*1 2006 年第 4 回「健康を守り育てる診療所」認証に際しておこなった患者調査による。11 診療所を一定期間（約 20 日間）に受診したすべての患者さん（合計 2,412 人）に調査用紙を渡し、郵便で第三者に返送していただく方法で調査した（平均回収率 70 %）。研究会会員の診療所ですので、普通よりもメンテナンスの方が多いという偏りがあります。

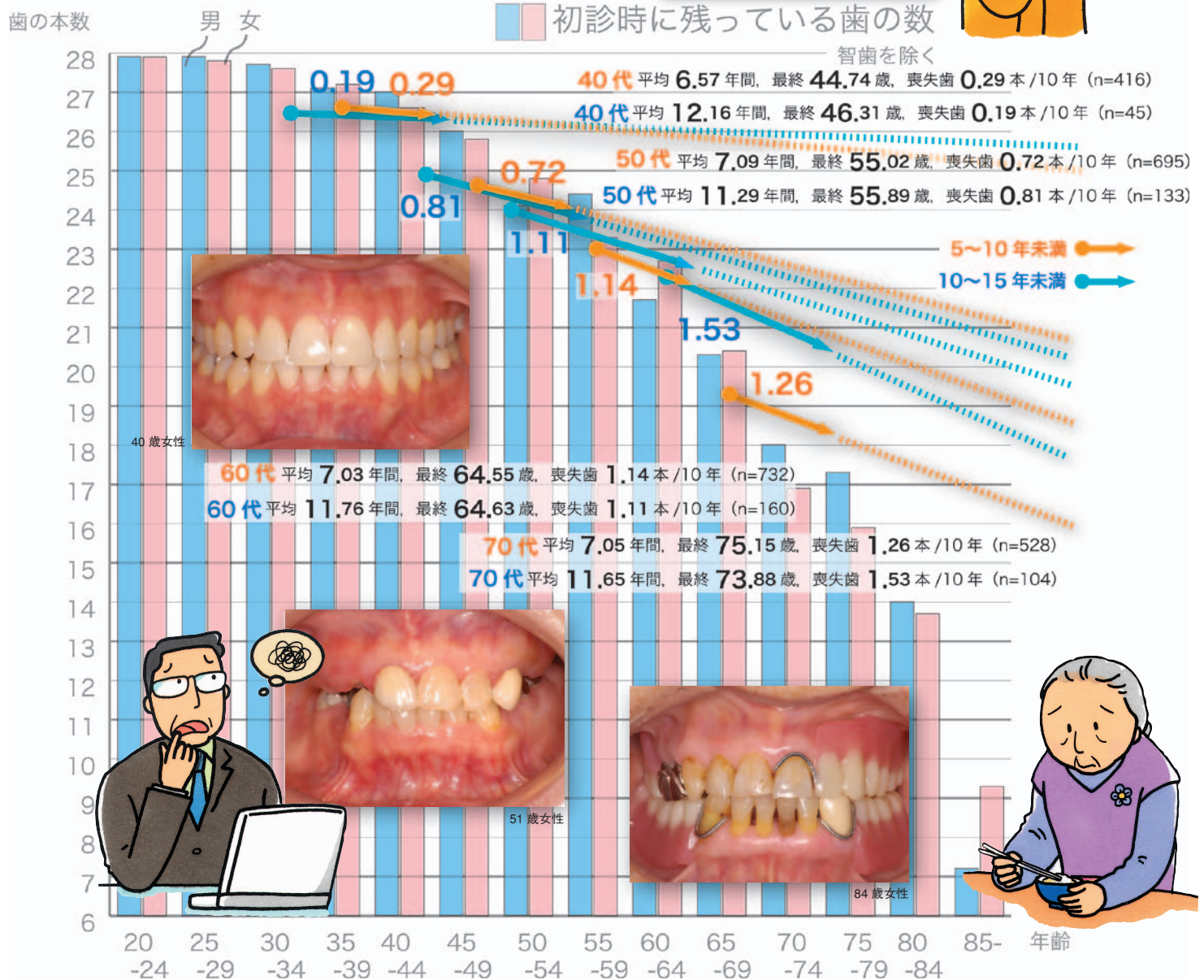
メンテナンスを定期的に受けている人は…

40代のメンテナンスでは10年間に平均0.29本^{*2}の歯しか失っていません。

50代のメンテナンスでは10年間に平均0.72本^{*3}の歯しか失っていません。

喪失歯には、初診のときにすでにかかなり悪い状態だった歯も含まれています。

各々の年齢階層でメンテナンス している人の10年間の喪失歯数



15 調査協力診療所の 40 歳以上の定期的にメンテナンスを受けている患者さんのデータを抽出しました。2,869 件が該当しました。

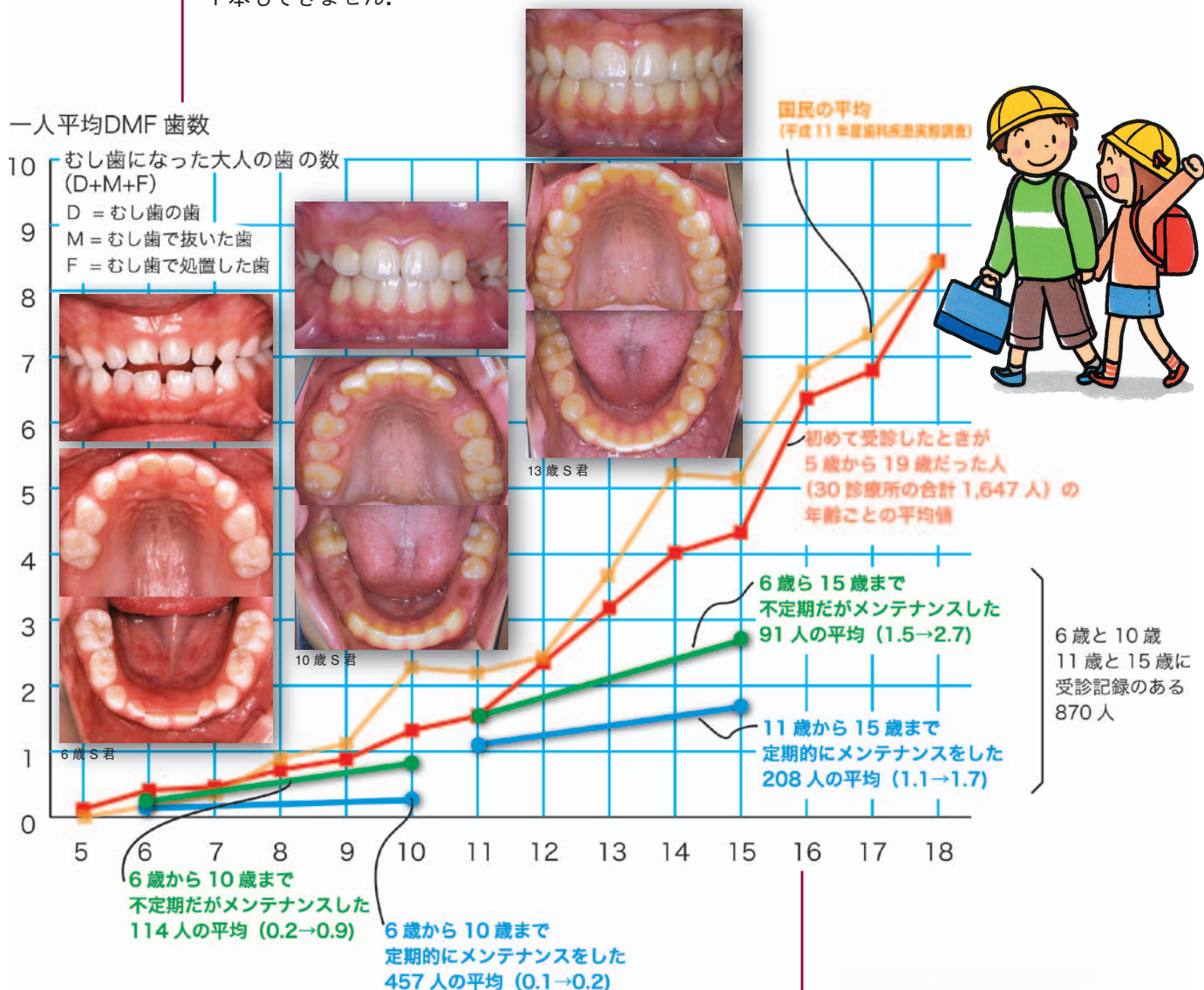
*2 40 ~ 49 歳のメンテナンス通院者 416 人 (平均メンテナンス期間) 6.57 年、10 年あたりの歯の喪失本数 0.29 本

*3 50 ~ 59 歳のメンテナンス通院者 695 人 (平均メンテナンス期間) 7.09 年、10 年あたりの歯の喪失本数 0.72 本

詳しくは、日本ヘルスケア歯科研究会誌 vol.8, no.1『歯科診療所での成人のメンテナンスと歯の喪失についての調査』杉山精一

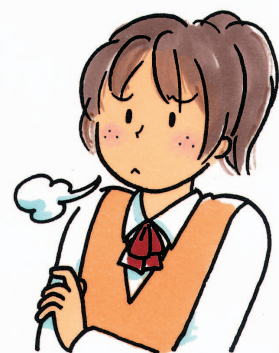
小学生のむし歯は確実に予防できます。

6歳から10歳の間毎年1回以上必ずメンテナンスを受けているお子さんは、5年間に0.18本^{*4}（平均）のむし歯しかつきません。定期メンテナンスを受けている88.3%^{*5}の子供にはむし歯は1本もできません。



中学生になってからが問題です

思春期、受験期、反抗期・・・注意していてもむし歯になりやすい年齢です。
11～15歳の間毎年1回以上メンテナンスを受けた208人は、5年間に平均0.55本のむし歯しかできませんでした^{*6}。
5年間に2本以上のむし歯をつくる可能性は、たまに通う人でも、毎年メンテナンスに通う人の2.21倍です。



むかし、むし歯は主に子供のものでした。

子供のむし歯予防が進んだ分、今は中学生、高校生、高齢者に危険年齢が移っています。

^{*4} 6～10歳の間毎年1回以上メンテナンスを受けた497人は、5年間に平均0.18本のむし歯しかできませんでした。

^{*5} これは6歳からの新たなむし歯の発生のない子供の割合。6歳時にむし歯のない子では、89.5%がむし歯なしで10歳になっている。

6歳と10歳のときに受診し、必ずしも毎年メンテナンスを受けなかった114人では、5年間にむし歯の増加は0.61本でした。

研究協力診療所(16)に定期メンテナンス受診をしたことがある1984年1月1日以降に生まれたすべての人(910人)を抽出し分析しました。

^{*6} 11歳と15歳のときに受診し、必ずしも毎年メンテナンスを受けなかった91人では、5年間にむし歯の増加は1.15本でした。

詳しくは、日本ヘルスケア歯科研究会会誌 vol.8, no.1『診療機関における子供の定期管理のう蝕予防実績に関する調査報告』藤木省三、杉山精一

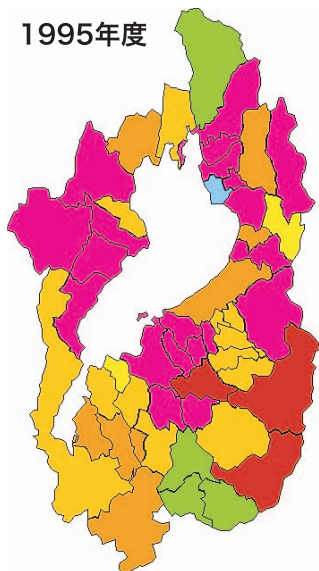
こんなに子供のむし歯は減りました。

その一方で

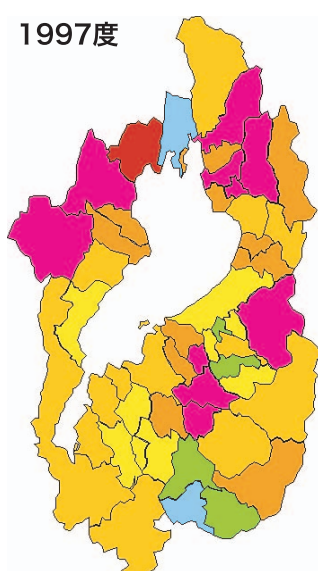
…個人差が広がっています。

滋賀県の12歳児の例…

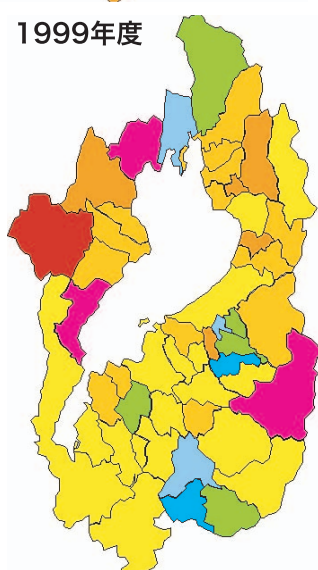
1995年度



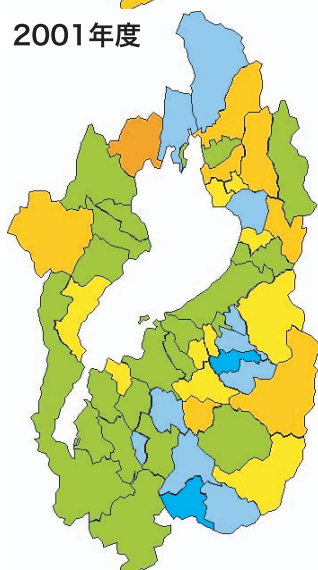
1997年度



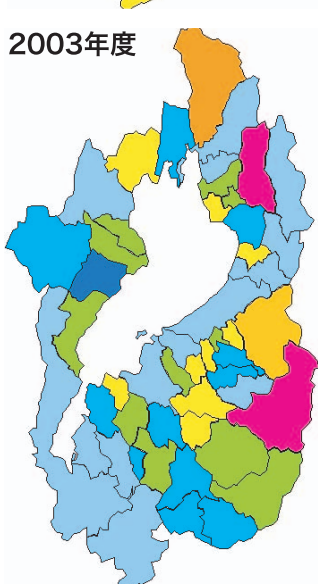
1999年度



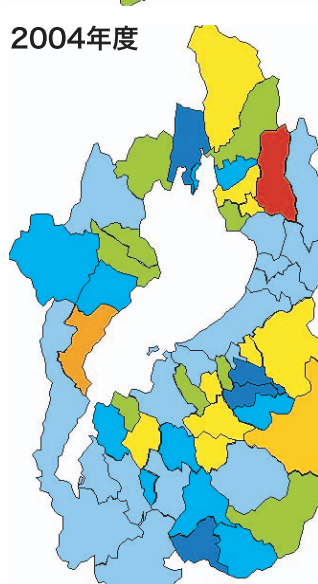
2001年度



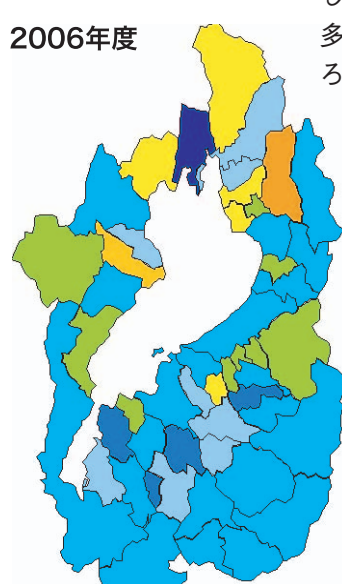
2003年度



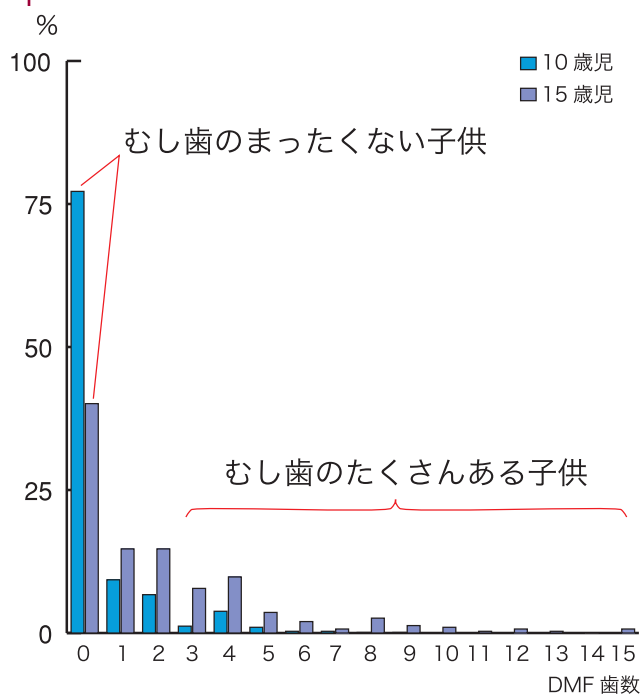
2004年度



2006年度



ほとんどむし歯のない、たくさんの子供と
たくさんのむし歯をもつ、わずかな子供

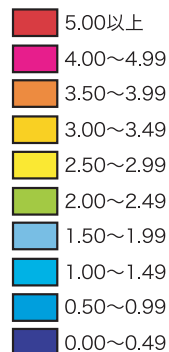


初診時のむし歯本数ごとの人数構成割合。研究協力診療所(16)を受診した10歳児763人、15歳児307人。

12歳児の、1人当たりのむし歯の数(処置していないむし歯、処置した歯、むし歯で失った歯の合計)を色分けしました。1人当たりのむし歯の多い市町村は赤、少ないところは青に塗られています。

地域の実状に即した保健
施策が着実に効果をあげ
ました。

DMFT



全国の市町村別学校歯科健診の結果を集めて地図にしました。あなたの町の詳しい子供たちの情報が見つかるかもしれません。ただし、学校歯科健診は税金を使って行われていますが、集計が義務づけられていないため、自治体によってはデータが存在しません。

(日本ヘルスケア歯科研究会ホームページ <http://www.healthcare.gr.jp>)